

全国に先駆けて設立され、今年21年目を迎えた福井県コンクリート診断士会の柴原会長に、現状と課題そして抱負を聞いた。この中で、コンクリート構造物の診断スペシャリスト集団として、地域密着型の貢献を一層強化したいと、並々ならぬ意欲と決意を示した。

◆貢献 直近では、福井県道路メンテナンス会議との技術支援協定に基づき、福井工業高等専門学校や福井大学の学生向け講習会に参加（講師派遣）する。老朽化のメカニズムなどを座学と実習フィールドの調査実習で分かりやすく解説。「学生には、少しでも興味関心を持ってほしい」と願う。福井県コンクリート診断士会では、今年度内に会員を対象に塗装の塗替現場見学、劣化事例に対する対策討論会や、解体工事現場での調査実習を予定。年度末には一般の方も参加可能な恒例のオープンセミナーを開催予定。地域のコンクリート構造物の維持管理に様々な形で貢献している。

◆増強 活発な活動をみせる診断士会だが、ここ数年は会員数が頭打

福井県コンクリート診断士会会長

柴原 幸氏



ち状況（正会員147人）と言う。柴原会長は「資格を取るべき人がすでに取り終えたためではないか。高齢による退会者も見られ、若手技術

者の資格取得と入会を望む。また運営を担う役員の負担軽減も必要」と指摘する。そのためにも「役員の役割分担で負担軽減を図るとともに、

若返りも進めたい」と組織力を生かした運営を目指す。会員増に向けては「コンクリート診断士の資格取得の受験対策セミナーを継続することをはじめ、県内の3

## 補修方法の進化にも対応へ

大劣化要因であるASR（アルカリシリカ反応）や塩害、凍害に対する補修方法



### 「役割分担と若返りで活性化を」

の進化に併せ、その対応力を高めたい」などと技術力アップに余念ない。

◆魅力 本業の建設コンサルタンの魅力は「道路や橋梁など様々な社会インフラに対し、測量・調査・設計・維持管理とトータルに携わることが出来る。安全な国土づくりの一翼を担えることがやりがい、魅力でもある」と強調。「インフラの定期点検が義務化となり、今年から3巡目に入り、予防保全が益々重要になる。長寿命化計画と相まって強化したい」と、益々高まる社会要請を追い風に、コンクリート診断士の社会的評価と地位の向上に努めたい意向。建設業が目指す新3Kの給与、休日の充実に加えて、「希望」も担う星として、今後ますますの活躍が期待されている。

しばはら・みゆき 59歳 帝国コンサルタント（本社・越前市国高1丁目）の技術部保全グループリーダー 福井県コンクリート診断士会の会長は、初代石川裕夏氏、2代山川博樹氏に継ぐ3代目。「建設コンサルの幅広い知見を生かすなど、組織力の一層強化を」と意欲を示す。